

やどりはら 農村集落部門：宿利原地区公民館（錦江町）

1 地区の概要

宿利原地区は、錦江町市街地から北東へ10km、標高200mの高台に位置し、広い高台には開かれた農耕地が多く、10の自治会で地区が構成され、桜島と開聞岳が一望できる風光明媚な場所である。

農業が盛んな地区であり、夏場は葉たばこや甘藷・生姜の生産、冬場は干し大根や高菜の生産など年間を通して農業の盛んな地区でもある。

錦江町は県内でも高齢化率第2位のまちであり、宿利原地区は其中でも人口が281名で高齢化率が51.8%と少子高齢化が急速に進んでいる。

平成20年3月に地区内の中学校が閉校し、小学校も全校生徒11名となっているが、地区と学校で協力し、運動会や校区一周駅伝大会・大根やぐらイベントなどお互いの協力体制のもと地域活動を行っている。

2 むらづくりの主な内容

3つの柱となる基本理念をもとに、公民館講座の開設や地域資源を活用したイベント、特産品開発に取り組み、「田舎でも楽しい地域づくり」をモットーに、次の時代へほこりある地域づくりを目指している。

農村集落の再生

宿利原地区では、中学校の閉校をきっかけに旧宿利原中学校跡地活用検討委員会を設置し、各自治会長やPTA、農業委員や郷土芸能保全会などが中心となり、廃校活用を含めた地区の将来像やむらづくりの目標について話し合いが行われた。将来ビジョンとして「地域の学校としての学び・交流の場づくり」、「地域に自信と誇りを持ち、魅力ある楽しい活動」、「地域の魅力を発揮し、持続力のある活動」を3つの柱を基本理念とし、公民館講座の開設や地域資源を活用したイベント、特産品開発に取り組み、次の時代へほこりある地区づくりを目指している。

多様な主体との連携

- ・ NPO（錦江・まちむらネットワーク）や鹿児島や関東の学生と小学校や地区公民館が、運動会や校区一周駅伝大会・大根やぐらイベントなどお互いの協力体制のもと活動を行うなど、年間を通じた交流活動
- ・ 鹿児島純心女子短期大学と連携して、地域で生産する干し大根を活用した、新たな特産品の開発やその商品化に向けた取組
- ・ NPOや大学生、企業、小学校と連携した大根やぐらライトアップイベントの開催

新たなむらづくりの形成、むらづくりの維持・発展

<地域の学校として学び・交流の場づくり（地区公民館講座開設）>

公民館講座を開設するなど、学校跡地を拠点にした学び・交流の場づくりを、地区公民館が主体となって取り組んでいる。

<地域に自信と誇りを持ち、魅力ある楽しい活動>

- ・ 県内一の干し大根の産地であるが、近年担い手の減少や産地としての認知度が低いことから、産地としての自信と誇りを取り戻すため、大根やぐらを活用したイベントを地区で開催
- ・ 約1,400人が訪れる大根やぐらライトアップイベントは、地区住民が主体となり運営し、現在はNPOや大学、地区と関連する企業、小学校等とも連携して取り組んでいる。

<地域の魅力を発揮し、持続力ある活動>

- ・ 地区公民館女性部の再編にあたり広く参加を呼びかけた結果、平均年齢が下がり年齢層も厚くなるなど組織体制が強化され、また高齢者の持つ食の技術が若い世代に伝承されるなど、持続力ある活動に繋がっている。
- ・ 鹿児島純心女子短期大学と協働で干し大根を活用した新たな特産品の開発や、商品化に取り組んでいる。
- ・ 干し大根が伝わった歴史を絵本化するなど、地域の魅力を発信する取組

3 今後のむらづくりの方向性

今後は、新たな視点でソーシャルネットワークなどを活用し、加工品開発や観光客向けのビジネスを展開し、農家の反収あたりの所得を向上できるように展開していく計画である。

地域資源や先人たちの知恵を活かし、時代に合った農業やビジネスを展開し、そこに住む住民が安心して暮らせる地域を守り、次の時代へほこりある地域づくりを目指していきたい。

<活動状況写真>



公民館講座（男の料理教室）



大根やぐらライトアップイベントの開催



漬け物のたれの開発



夏休みの寺子屋塾